

知ってみよう! 学べる仙台

「仙台防災枠組」とは?

仙台防災枠組講座の様子▶



「仙台防災枠組」は、2015年3月に仙台で開催された「第3回国連防災世界会議」の採択文書であり、国際的な防災の取組指針です。「仙台防災枠組」の特徴のひとつは、市民社会や企業、障害のある方、子ども、女性、外国人など、様々な立場の方が防災に参画することの重要性が書かれていることです。仙台市では、「仙台防災枠組」の内容を皆さんに知って頂くため、2016年から東北大学とともに「仙台防災枠組講座シリーズ」を開講しています。2019年7月に開催した講座では、「多文化防災について考えよう!」をテーマに、東日本大震災の避難所で実際に発生した課題を用いたワークショップを行いました。各グループに一人ずつ在仙の外国人が参加し、言語や文化の違いにより生じる課題について考えました。「仙台防災枠組講座シリーズ」は今後も開講予定です。また、「防災環境都市・仙台」ホームページに掲載されているプロモーション動画でも、「仙台防災枠組」に関する内容がご覧いただけます。また、防災・減災に関心をお持ちの企業・団体などを対象に、仙台市が講師を派遣し、「仙台防災枠組」についてお伝えする出前講座も行っています。ご希望の場合は、お問い合わせください。

詳細は以下までお問い合わせください。

仙台市 防災環境都市・震災復興室 TEL 022-214-8098 FAX 022-214-8497 HP <https://sendai-resilience.jp/>

お知らせ

仙台防災未来フォーラム

「仙台防災未来フォーラム」は、東日本大震災の経験や教訓を未来の防災につなぐため、発表や展示、体験型イベントなどを通じて市民のみなさまが防災を学び、日頃の活動を発信できるイベントです。

日時 11月10日(日)
2019年 10:00~17:00

会場 仙台国際センター展示棟 地下鉄東西線「国際センター駅」より徒歩1分 入場無料

テーマ わたしたちの防災を届けよう 世界へ、未来へ



発表 (10団体)



ワークショップ (5団体)



ブース展示 (50団体)



参加型のプログラム多数!

ステージイベント

阿部清人先生の
防災エンショー

① 10:10~
② 14:00~



大学生考案!
防災段ボール製品
HONEY ROOM

避難所で使用できる
授乳スペースを展示
します。



災害時の
食を考える

明成高等学校調理科、
宮城学院女子大学
Food and Smile! などによる
試食があります。



ショウちゃんの
腹話術
防災ミニ講座

① 10:50~
② 14:40~



※プログラム等、詳細はホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。※プログラムは変更になる場合があります。

仙台防災未来フォーラム 運営事務局

TEL 090-2952-0251
(土日祝日を除く10~17時)
E-mail info@sd-resilience.jp

ホームページ https://sendai-resilience.jp/mirai-forum_n/
Facebook <https://www.facebook.com/sendai.bosaimiraforum/>

同時開催行事

世界防災フォーラム／防災ダボス会議@仙台2019

日時 11月9日(土)~12日(火) ※11/9(土)は前日祭

会場 仙台国際センター会議棟
東北大学川内萩ホール

第10回「震災対策技術展」東北

日時 11月10日(日)~11日(月)

会場 仙台国際センター展示棟



HP



Facebook



経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

発行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室

T 980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL 022-214-8098
FAX 022-214-8497
E-mail: mac001605@city.sendai.jp

発行日 2019年10月

「えーる」は防災環境都市・仙台ホームページにも
掲載しています。

<https://sendai-resilience.jp/>

仙台市の取り組みから、
市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しています。

次号は2月発行予定です。

タブレットでも!
スマホでも!



この印刷物は「再生紙」を使用しています。



防災環境都市・仙台ニュースレター



「伝える」「繋げる」「備える」を応援する
防災環境都市・仙台の市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のある
まちをつくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。
「えーる」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する
“ひと”に注目し、その取り組みを紹介していきます。

2019 No.12

テーマ
地域をつなぐ
復興と防災

左から調理科2年 菅原勇輝さん、高橋信杜先生、調理科2年 佐々木琉風さん

地域の食文化の復興を、未来につなぐ若い力。

明成高校の調理科では、2006年から「リエゾン・キッチン」と名付けた地域の食文化を活用した地域協働学習のプロジェクトに取り組んでいます。その一つが宮城に百年続く仙台北菜の食文化をテーマとした「みんなの白菜物語プロジェクト」です。震災の一年前、2010年の3月から活動が始まりました。日本の白菜のタネのふるさとが松島湾の浦戸諸島であったことや宮城県が大正末期から戦前まで全国一の白菜産地であったことなど、地域の食文化の歴史をひもときながら食の学び活動を地域協働で進めています。震災後は震災・復興の学習を兼ねて津波の被害を受けた塩竈市の野々島を訪れ「白菜のタネ採り文化の保存活動」にも取り組んできました。毎年1年生が9月に採種用の苗を植え付け、翌年の春に菜の花を咲かせます。そして2年生になった生徒たちが7月に鞘からタネを取り出す作業を地元の子どもたちと行います。この一連の学習プログラムは、今年で8回目を迎えました。

生徒たちがこの学びを通して「将来は地域の食材を使った料理を提供し、その歴史や文化、魅力、また復興についても伝えていきたい」と言ってくれる事が、とてもうれしいです。将来それぞれに地域の食文化や復興の歩みを世の中に広く伝え、未来へとつないでくれる事を願っています。この活動は人と人とのつながりや交流を生み出しました。島での採種文化の保存や継承の他、コミュニティの再生や白菜の菜の花畑が広がる春の風物詩を震災・復興の学習や観光資源としていかす取り組みにもつながっています。



▲野々島の白菜の菜の花畑

リエゾン・キッチンでは、仙台味噌の食文化を学び伝える「MISO de SMILE プロジェクト」にも取り組んでいます。11月の「仙台防災未来フォーラム」では、仙台味噌を使った即席みそ汁の体験コーナーを設ける予定です。災害時でもみそ汁一杯で人を和ませ、笑顔になってもらいたいと生徒たちが企画しました。ぜひたくさんの方に体験していただきたいですね。



▲楽しさいっぱい即席みそ汁の素
MISO de SMILE

学校法人朴沢学園 明成高等学校 調理科

明治12年の「松操私塾」開校から今年で創立140年。調理科は昭和47年の設置。調理科では未来の食文化を担う人材を育成しており、生徒は卒業と同時に国家資格である調理師免許を取得。令和2年度からは7年一貫教育も目指す仙台大学附属高校となり、調理科も食文化創志科と名称を変更。3つの専攻、食産業プロデュース、調理製菓クリエイト、地域食環境デザインが設けられる。
〒981-8570 仙台市青葉区川平2-26-1 TEL 022-278-6131 HP <http://www.hgm.ed.jp/>



テーマ・インタビュー 繋げる仙台

みんなが集まり、支え合う。Open Villageノキシタ ～つながりと役割で健康になるまちづくり～

「Open Village ノキシタ」は、地域の高齢者・障がい者・子どもたちが自分の居場所と役割を持ち、さまざまな活動を通して交流することで、地域住民の孤立を防ぎ、高齢者の健康寿命を延ばすまちづくりを目指しています。この取り組みは、災害弱者と呼ばれる方々の自助、ともに助け合う共助を促すと同時に、住民同士の交流や多様なステークホルダーとの連携によるまち全体の防災力向上にもつながっています。



コレクティブスペース スタッフ

藤澤 律子さん (後列左から)

元特別支援学校教員。「さをり織り」担当として、その魅力を伝えています。

Open Village ノキシタ 村長

加藤 清也さん (前列左から)

株式会社 AiNest 代表取締役社長
技術士：総合技術監理部門／建設部門 (道路、建設環境)

田村 咲里奈さん

元保育士。小さなしあわせを発見し、笑顔になっていただく事が喜びです。

青山 遥さん

元特別支援学校教員。誰もが一緒に楽しく交流できる場を作っています。

ボランティアスタッフ

加藤 宙歩さん

重度知的障がい者。皆さんに笑顔と元気を届ける人気者です。



▲コミュニティ活動の様子

誰もが自分の役割を持ち、人とつながる居場所

——「Open Village ノキシタ」は、どんな施設ですか。

加藤村長

2019年5月18日に仙台市の田子西にオープンした共生型複合施設です。軒下で人と人が楽しみなが交流できる場所、地域住民はもちろん高齢者や障がい者が自分の居場所と役割を持ち、元気に暮らせるまちづくりの拠点となることを目指しています。株式会社AiNestが運営する交流の場「コレクティブスペース」を中心に、障がい者就労支援カフェ「オリーブの小路」、「シャロームの杜はいくえん」、障がい者サポートセンター「Tagomaru (たごまる)」を併設しています。ボランティアスタッフの加藤宙歩君は生後2日目にくも膜下出血を発症した重度の知的障がい者で、他のスタッフとともに「ノキシタ」に遊びに来た皆さんのおもてなしをしています。

青山

一般的にはサポートを受ける立場である障がい者の宙歩君が、高齢者の健康をサポートする役割を持つところがノキシタの特徴の一つです。宙歩君と楽しい時間を過ごした皆さんは、とても元氣になって帰っていかれます。スタッフである私たちも、人生の大先輩である皆さんから教えていただくことも多いですね。

田村

皆さんと会話を楽しんだり、オープンキッチンで料理をして一緒に食べたり、お子さんたちと遊んだり、障がいのあるなしに関わらず、子どもから高齢の方まで幅広い年齢層の方が交流し、笑顔になっていただけることが「ノキシタ」の魅力です。

藤澤

コレクティブスペースでは「さをり織り*」の体験もできます。好きな色の糸を自由な発想で織り込んでいくので、どんな方でも素敵な作品が作れます。ギャラリーでは「さをり織り」の展示・販売やさまざまな展示会なども行っています。

株式会社 AiNest (アイネスト)

1994年から田子西地区の土地区画整理事業に携わり、2011年の震災後は被災者の支援やコミュニティ形成を担う国際航業㈱の100%出資子会社。「つながりと役割で健康になるまちづくり」をコンセプトとする「Open Village ノキシタ」の事業を通して、超高齢社会及び被災地の課題解決のモデルとなる、これまでにない新しいまちづくりに取り組んでいる。

仙台市宮城野区田子西1-12-4 TEL 022-352-3022 ホームページ <https://www.ainest.jp/>

Open Village
ノキシタ

交流と健康で、災害弱者を減らす取り組み

——11月開催の「仙台防災未来フォーラム」では、どのような発表を予定されていますか。

加藤村長

「ノキシタ」に通うことで元気になる皆さんの事例をご紹介したいと考えています。目や脚が不自由な高齢の方が、宙歩君に会いたくて毎日ここに通ううちに、4ヶ月で30分も平気で歩けるようになりました。一般的に災害弱者と呼ばれる高齢者や障がい者の方々が「ノキシタ」で自分の居場所と役割を見つけることで、努力も意識も我慢もせずに、楽しみなが元氣になっているのです。

以前、国際航業㈱の技術士として多くのまちづくりの防災を担当する中で得たひとつの結論は、災害が起きた時に自分で判断し、自分の足で歩いて避難できる自助の力がとても重要だということです。また日常交流のなかで高齢者・障がい者・子どもたちがお互いの特性を理解し、非常時にその相手にどんな支援が必要かを考え、お互いに支え合う共助の心や手法が身に付けば、まち全体の防災力も高まります。

超高齢社会と被災地の課題解決を目指して

——今後のビジョンや地域のステークホルダーとの連携についてお聞かせください。

加藤村長

超高齢社会において介護や医療にかかる社会保障費を減らすためには、人々の健康寿命を延ばす事が重要になります。要介護や認知症になりにくい元氣な高齢者は、人とのつながりが多く、自分なりの役割を持っていることがわかってきました。

「ノキシタ」では高齢者と障がい者が支え合いながら活動することで、お互いに元氣になっています。また震災から8年半を経て、田子西地区の復興公営住宅等に住む方々の孤立やコミュニティ形成が課題になりました。町内会やNPO法人、行政等と連携を図りながら、高齢者だけでなく地域の皆さんもまた、つながりと役割で健康になるまちづくりを進め、超高齢社会における被災地の課題を解決していきたいと考えています。

田村

「ノキシタ」は、人と人がつながり、楽しく過ごせる場です。より多くの皆さんにおいでいただき、ここでさまざまな方と一緒に活動することで笑顔に、そして元氣になって欲しいですね。



▲コレクティブスペース「ノキシタ」

*さをり織り

1968年に大阪の専業主婦であった城みさをが、57歳の時に始めた手織りの手法の一つ。見本・手本といったものがなく、傷が個性となり、織ることによりひとりひとりが生まれながらに持っている感性を「引き出す」という独自の考え方は海外でも広く受け入れられている。



コラム

やってみよう!

備える仙台

仙台市沿岸部の人々の想いを共有する 「海辺のメモリアルソーダ」を販売中です!

地下鉄東西線荒井駅舎内「せんだい3.11メモリアル交流館」に、この夏初めてオリジナルグッズが登場しました。

「海辺のメモリアルソーダ」は、震災前に仙台市沿岸部に住んでいた方や震災時の復旧作業に尽力した方、現在内陸部に住みつつも沿岸部へ通って様々な活動をしている方などの想いを、昔懐かしいソーダに込め、地域の方や仙台を訪れる方々と共有します。おまけとして、在仙イラストレーター 佐藤ジュンコさんによる、沿岸部にゆかりのある方たちの震災前後の想いや活動を描いたミニ漫画「海辺のメモリアル帖」(年4回更新予定)が付きます。価格は1本200円(税込)。ソーダをご賞味いただいた後は、ぜひ荒井駅から市営バスやお車で震災遺構仙台市立荒浜小学校などを見学にいらして下さい。



せんだい3.11メモリアル交流館

TEL 022-390-9022 開館時間 10:00~17:00

休館日 月曜(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日(土曜・日曜・祝日を除く)
年末年始、臨時休館日

地域における災害への備えを高める取組み

精神障害のある方向け避難計画作成ツール

「せんだい安心ナビ」を活用した災害対応力向上の取組み

仙台市障害者支援課では、東日本大震災での教訓を踏まえ、自助、共助、公助のバランスのとれた災害時の支援に向け、精神障害のある方の自助力向上の取組み(災害時の避難行動や準備のイメージづくり)及び平時からの地域における障害福祉関係事業所や精神科医療機関のネットワーク強化の取組み(災害ころネットモデル事業)を進めてきました。

仙台防災未来フォーラムでは、平時からのネットワーク強化に関するモデル事業の実践報告を行うほか、災害時の行動をシミュレーションし、不安や混乱を生じにくくするためのツールである「せんだい安心ナビ～災害時いざというとき役立つ本～」の効果的な活用方法や事業所・医療機関での災害対応訓練などに取り入れる工夫について、参加者の皆さまと共有いたします。

精神障害のある方やその支援者・事業者の方々とともに、地域と連携した平時からの災害への備えについて考える機会となれば幸いです。

仙台市障害者支援課

TEL 022-214-8165 FAX 022-223-3573



考えるきっかけに
してみよう

コレクティブスペース「ノキシタ」

TEL.022-352-3022

営業時間／9:30～16:30

定休日／日曜、祝祭日、夏期休暇、年末年始

ノキシタカフェ「オリーブの小路」

TEL.022-385-7931

営業時間／10:00～16:00(LO15:00)

定休日／日曜、月曜、祝祭日



▲ノキシタカフェ「オリーブの小路」